

昭和三年三月十九日招集(才七号)
第一回市議會定例会々議錄

館山市議会第一回定例会々議録（第七号）

昭和三十九年三月招集

一 三月十九日（木曜日）

一 議事日程（第七号）

第一 議案第五号乃至第一二号

昭和三十九年度館山市一般会計及び特別会計予算
案質疑

三月十九日午前十時開会

議長（黒川佐太郎君）本日出席議員数二十六名

二（イ）第一回市議会定例会第六日の会議を閉会いた
します。本日議事は昨日に引き続き議案第五号
乃至第十二号を一括議題といたします。

こゝより前回の議事を継続し議案第五号一般会計
予算案の歳入の部、質疑を行ないます。

・二九番(鈴木市蔵君)一〇ページ教育予算に対して質問してみたいと思ひますが全日制の生徒が千百十人六百円、七千九百九十二万というふうな月謝をもらつてゐるんですが、全日制の生徒の中で郡部からきてゐる生徒は二百円余分に月謝をもらつてゐる。その歳入がなひはどういうわけか。

・庶務課長(干場伊右エ内君)寄付金、ところでございますが市外からくる生徒に対しては、月二百円ずつ、毎月いたゞいてあります。二一ページ教育寄付金二百円、五百円十分、十二カ月でございます。

・三番(小柴孝君)七ページ市税の滞納についてお尋ねいたします。

滞納は毎年論議される問題ではないかと思いますが、私
よく知りませんので、お尋ねするわけですが、滞納の額とい
うものは毎年累計したものが、この額になっておるのか、或い
は一年分の額が、これが一つ。それから、こういう滞納を起
こす動機についていわゆる課税額が不当について、こ
う滞納があるのか、或いは過重な把握からこういう問題
になっておるのか、或いは十分納めらるる立場にありながら
故意に納めないのか、そういう細かい点についてわかりませ
んので、教えていただきたいと思ひます。なお、市民税の申告
等につきましては市民から二三次のような質問を受けたりわ
けでございしますが、私もはっきり答えられませんが、教えて
いただきたいと思います。

それは一カ月二十五日の割合で課税対象にならうという
問題で、これは仕事の内容によつては雨が降るという場合

に仕事を休まなければならぬということでございます。参考までに調べたところ、昨年の六月は八日間、十月には六日間、雨が降つてゐる。それを二十五日所得があるという面で参りますと、納得がでないという面が出てくると思ひます。

こつう面が滞納という面に關係しなければいいんですが、やはり納得できないから納めなくていいでござうというふうな質問を受けたりわけでございますが、こつう面に納めていかざる見解が、以上三點、お伺ひたいと思ひます。

・税務第三課長（多田俊一君）お答えいたします。第一点の滞納額の内訳でございますが、これは昭和三十九年度以前の滞納額の累計を出してございます。

大体三十五年以降三十八年までのものが大部分でございます。

滞納の原因でございますが、中指摘通りいろいろな原因がございまして一概にこういうことは申し得ないと思ひます。

市民の経済状況、或いはまた一方、我々滞納整理の方法が悪いという面もあると思ひます。一概に原因が何であ

るということは申し上げませんがとにかく現状においては、こういう滞納がふたつあることを抑へて承を願ひたいと思ひ

ます。

滞納繰り越し分の額につきましては、三十八年

度の決算見込みによりまして一応計上をわけてござい
ます。

・税務第一課長（高木哲三君）一カ月二十五日ということは年間

通じて一カ月二十五日ということではございまして国税の方も

やはり二十五日で計算してありますので、市民税の方もや

はり二十五日で計算してあります。天候ということもご

ざいですが、仕事によつては降つてゐるような場合でもでき

るかと意思します。

。三番(小柴孝君)一、二点については了解いたしまして、たが、なるべく滞納をなさぬようにするたぐいは、やはり納得のいく課税、或いは納得うでできる徴収方法というふうな問題が大事ではないかと思ひます。今後いっそう滞納額の削減という点につきまして一般の中努力を願ひまして、賛同を致します。

。二七番(嶋田繁君)一、二点、市民税、固定資産税の収納率は、この四年間上昇をたどっておりますかどうですか、これを伺ひたいと思ひます。同時に一応三年間位の収納率を調査額というものでございまして、率を表で作つてもらいたい。同時にそれは増減がどう位あるか、それも含めて表で作つてもらいたい。それから減免を適用してある世帯数はどう位ありますか。これが第二点。

もう一つ、減免規定にいろいろ公私の扶助を受けてあるものというふうにあります。最後にその他ということでございますが、これはどういう場合を適用するや、例えは、以前固定資産税、建物、あたりにも相当大きなものを持っております。現在非常に貧乏な状態にある家庭もある。

そういう家庭ではあきんど一人で子供が東京に行ってしまつて仕送りがない。大きな建物を持って税金に苦んでしまふ。こういう家庭に「その他」というものを生かして使うべきではないか。こう思うんですが、それについて、やはり見解をお伺いしたい。以上三点。

・税務第二課長(多田俊一君) 第一点に対してお答え申し上げます。やはり指摘のようにな年々現年度分繰り越しかつ徴収率は上昇しております。昨年は九二%、前々年は九一%、それいから資料の点につきましては、今手元にはございません。

ので、うちほど、細かく希望の点につきまゝて作成いたします。減免世帯の数につきまゝでは、私どもの方でこの数字につかんでおりません。ただ執行停止とか、そういう適用は相当してございます。

や承知のとおり徴収という点につきまゝでは、いうばかりでなく納税者の実情を調査いたしまして徴収員もいろいろ努力いたしておるわけでございます。

それから減免の適用でございますが、確かにおっしゃる通りに相当大きな固定資産を持つてゐるが現実に非常に困つてゐるというケースもございます。そういう場合にこれは課税と同時に一課の方で免除申請という申請を出した場合にそれを見よという適用もございます。この徴収方法でございますが、できるだけ実情を調査いたしまして、遺憾のないような方法でやっていきたい。

それには分納とか徴収猶予これは二年ということになつております。あまり使っておりません。

「その他」の応用面につきましてはこれもできるだけ滞納の実情を十分調査の上、徴収していきたい。こういうふうに考えております。

なお減免につきましては私もただ減免ということではなく、これに對しましては、申請書を取りまして、それによつて減免をすゝという方法を取っております。現在あまり減免という方法はありません。できるだけ分納督促で納めていただくという方法でやっております。やむを得ない場合に私も方々いたしましては、執行停止という方法を取りまして三年間資力の回復を見ていくという方法を取っております。

二六番(鳩田繁君) 片説明でよく了解がつきましたか、そ

ういう家庭こそ本当に気の毒だと思ひますから、「その他」をここで適用するといふ位に思ひ切つた処置を考へて貰ふべくあそこを生かしまゝでそういうものを救つてゐてもらひたい。十分研究してほゝいといふふうに思ひます。

○一番(吉田勇治郎君)市債についてお教え願ひたい。

本年度市債といふ一ヨリで三千五百万円でございますが、過去の市債はどの位ありますか。この三千五百万円も合せてどの位になりますか。館山市の歳入をながめた場合にどの程度までの市債というものがあつていゝのか。最高許容範囲その点をお教え願ひたいと思ひます。

決算のとき出まゝなり答弁では非常にギャップが大きくございましてちつと考えるところがございしますので

お教え願いたいと思ひます。

・総務課長(山口実君) 第一点、過去における起債額でございますが、厚い方が一〇九ページにあります。二億一千九百四十二万七千円、それから市債でございますが、これは一応私どもといひまゝでは、限度につきまゝでは、公債費の償還額でもつておつてありますが、一応限度は前年度の一般財源税収入プラス交付税、これが限度額が二〇%から三〇%となっております。

現在、ここにあります。今年、公債費の合計は六・六%でございます。さらに余裕があるわけでございますが、そう他に財政上からくる制限といひまゝでは、税の徴収が八〇%以上、こういう徴収成績を上げているということが条件でございます。

○一番(吉田勇治郎君) 決算委員会にもそれと同様の答弁

でおおむね了解してゐるでありすが、許容範囲が二割から三割という二割と三割では非常に大きなへだたりがある。それを本當に財政事情を許す許容範囲といたならば三割なら三割と答へるものが本来ではないかと思ひます。もう一回教えていただきたい。

・助役(小島武男君) 今総務課長からお話一まゝ二割乃至三割というものはその程度なら地方の財政規模によつて非常に借金しても財源があると払えるということもある。二割やつても窮乏なもつもあると思ひます。一かゝりながら平均一まゝ二割乃至三割程度の償還額を持つてもならばやり得るだろうという一つの見込みでございまして、何割でなければいけないというものではなひんです。という意味でございします。

・一番(吉田勇治郎君) ということは、幸ひにして鑑山市は六・六

ということなんですからまだ相当大幅に債務を起こして
もいゝということが言い得るわけですね。そう解釈してよろ
しゅうございますか。

・総務課長（山口実君）そうですね。

・二三番（君塚喜三君）償却資産についてお尋ねいたいたいと思ひ
ます。

まず、償向に入る前に七ページの固定資産税。この中に償
却資産に対するものはどう位予定されておるのか。まず、
お伺いして次の償向に入りたいと思います。

・税務第一課長（高木哲三君）償却資産は、千五百四十八万千
二百円でございます。

・二三番（君塚喜三君）地方税法償却資産の取り扱いについて
お尋ねしたいと思うわけですが、ということとは申告者によつ
てその取り扱いが異つておるというふうなことがあつてはまず

い。こうした際にはつきりしていただいた方がいいんではないか。二つ思うに思いますが、で、中質問を申し上げる次第でござります。

地方税法の三百四十一条の四項に償却資産の定義がはつきりうってあるわけですね。

読み上げてみますと、一土地及び家屋以外の事業の用に供することができる資産でその減価償却または減価償却費が法人税法または所得税法の規定による所得の計算上損金または必要な経費に算入されるもの（これに類する資産で法人税または所得税を課されない者が所有するものを含む。）こういうことになってあるわけですね。

ところで三百五十一条には償却資産税の免税点として十五万ということがはつきり明示されてある。そこで実際問題といまして、税務署、これは所得税法によるものな

と思つてあります。が、税務署においての指導というものは、青色申告者に対して指導がなされるわけですが、これによりますと減価償却の対象となる什器、備品、こういったものについては、原則としては一百万である。しかし新規に購入するものについては、三百万以上とせなければならぬ。

こういう指導がなされておるわけですが、従いまして青色申告者につきましては三百万以上は減価償却の対象として、いわゆる「所得」計算上損金または必要な経費としていれて所得額を減額することができるといふことです。従いまして、そういったものを申告することになるわけですが、ところが償却資産の性格からいいますれば、地方税法にもききまして固定資産税にないても、それが対象になるといふことははっきりいたすわけでございますが、そこで問題は青色申

告者についても、そのような三百円以上の減価償却
 において六年、或いは十年といったような償却を受け
 るわけでありますが、そういうことよりも、消耗品と
 してその年度に差引いてくゝることと望むところ
 が今いったような取り扱ひを指導してゐる。そのようなことで
 申告額というものはある額に達する。そうしますと、償
 却資産の定義から当然償却資産として固定資産
 税の対象になつてくる。

それから今度は白色のものについて、かような取り扱
 いがなされるかというところ、そういうことになつてから、三百円
 以上、例をいたしまして、きな板、一つ申告したというやうな
 ことを圍いておき、そこでございますが、白色については、そのよ
 うな査定がなされるかというところ、これがわからない。とても不
 可能なことではないかと思つてありましたが、そのやうに

青色申告者と白色申告者、償却資産税に対する取り扱いが、アン・バランスが出てくるわけです。この点、今度どのような扱いを以てしようとするのか、その点、お尋ねをいたすわけであります。

中答弁によつて千五百四十一万といったような大きな収入源を以ておるものでございまして、この取り扱いの如何によつては、収入源に大きなひびきがくるのではないかと思つたわけでございますが、この点についてお答えを願ひたいと思ひます。

。税務第一課長（高木哲三君）お答えいたします。確かに青色申告の取り扱いについて中指摘の通りでございます。なかなかそれまではやりきれませんので申告によつて現在はやつております。

大きいものについては行つて一々購入額を悉く調べて調査

してありますが、ふさいものについては、それまでは現在のところ
うやめておりません。

ふさいものについては、申告通り受け付けておりますので、そ
う点、やはり漏れ落ちがあるところもあると思っております。
ですから、そういうことではいけないことになっておりますが、それ
まで調べまいというので、そういうこともまずいところがあると思つて
おります。

。ニニ番（君塚喜三君）　そうしますと、白色と青色申告者は当然、
大きな用事が出てくるということが、はつきりするわけではござい
ますね。

白色については、そこまで、実際問題として調べる必要はないと思
うのでありますが、従いまして、青色申告者の申告という
ものにも多少寛大な見方を置いていただかないと、アンバラ
ンスということになろうかと思っておりますが、その点は、

十分了解の上でやっていたきたい。二つ思ふんですが、大へんむづかしいことなんです。かように解釈してよろしいかどうか、ますか。

・税務第一課長（高木哲三君）一応申告によって課税していくことになっていたと思います。

・二番（君塚喜三君）それから償却資産の申告というやつは申告しないのが罰せられるのではなくて、取り立てられない方が罰せられるという規定になっておると聞いておりますが、私もそこで調べておりませんが、そういうことでございませうか。

・税務第一課長（高木哲三君）それまで勉強不十分でございします。申しわけございします。

・一六番（奥武夫君）助役さんにも伺いたいと思います。

歳入歳出予算を見ました場合にまず、第一に直観的に

感ずることは、歳入予算がこの数字より漏り、正確に入ってくるのかどうかということを考えるわけでございます。今回提出された歳入予算を前年度と比較しながら見て参りますと、比較的建金に組まれておる様に推察されます。昨日助役さんが經常充当額は七〇%位までが適切であると申された。ただ今、市債の限度額は一般財源の二〇乃至三〇%の範囲内が適切であるというお話が出た。そこで伺いたいのは、当初予算というものは年度末までに予想される予算総額、何%位を組んだら適当であるか。そういう自治省あたりで標準があるものなのか。あったらお教之願いたい。これが第一点。

それから、明細書の二二ページ十一款繰越金、二千七百万円、これは十二月ごろ考えて組まれた数字だろうと思

ますが、現在のところ、あまり現金が十分でないように思いますが、果して二千七百万円以上の繰り越しが可能であるかどうか、この点を伺いたい。

ニ四ページの市債の件でございしますが、三千五百万円の市債が一〇。％認可される見込みであるかどうか、この三点を伺いたいと思います。

。助役（小出武男君）第一点は当初予算は年割りの位を目途として編成するかということでございますが、予算を編成するときには一番、私も考えることは、地方財政計画、その他自治省、果ては指示があるわけでございますが、これを一応軸ももちろん財政計画は擇むるわけですが、その前にいろいろ内示的な通知などもございします。

一番大事なことは、財源の確保ということでございますが、あくまで、予算の編成には財源をまず、第一におさえる

けいばならないことは当然でございます。

そこで毎年、通知に示されることでございますが、過大な見積りをもつて歳入面にすることは、これは私どもの最大禁物でございます。もう限り大きく見たんですが、不況金性を持った部面においては、当然取り入れられないので、健全性、この初なる、がっちりだということを歳入の限度といいたい。そういう考えでございますので、結果的に見まわして、毎年繰越金金が出てくるということはおかしいんじゃないかと、いうことがいえると思いますが、当初予算にはかような考えから、確実財源を一定予想いたしますために、その間に一年間にいろいろな変更がございます。少くとも伸ぶることはあつても減ることはないという予算を組むわけでございます。すうで、そういう考え方で何%をたな上げ、て組むという考えは、毛頭ございませんことを申し承願したいと思ひます。

次に本年度二千七百万円を繰り越し金を組みましたが大體
今のところではその位を繰り越しは十分あると考えており
ます。

それから、市債でございますが、起債も各主管課におきま
して、これ以上までに相当事務の折衝をいたしております
ので、これもやはり財源でございますから、相当確実なも
のを組み合わせたところでございます。

一六番(岡武夫君)ただ今の回答弁で第二点、第三点は全く
了解いたしました。

第一点もよくわかりました。自治省あたりでそういう標準
を指導はないということでございますか。

助役(小出武男君)金額的な標準はもちろんでございます。

五番(田中祿郎君)助役さんに伺いますが、都市計画税という
ものを納めますが、もとは国からくるというふうなことを申して

あります。現在でもそれはくるんです。

。助役（小出武男君）都市計画法税は、目的税でございますので、自治体がある目的、事業につぎ込むために市が設定した税金でございますので、それのみに限定した助成とか補助はな
いわけでございます。

。五番（田中祿郎君）私もしりませんが、あくまで
も呼ぶ水式、目的税である。

例えば都市計画法税を徴収すればそれに対してその額に相当するものが国からくるんだ。それでなければ、国からこないんだというふうなことを私は伺ってゐるんですが、

。建設課長（新井重助君）お答えいたします。都市計画法税は、その市町村が都市計画法にその市町村で行なう事業に使うということがたてまえになっております。

都市計画でやります。例えば道路にいたしますと、従来

は、六メートルか、七メートル、その後交通量がよけいになった関係で十一メートル以下の道路に補助金がつかない。

十一メートル以上の道路については、三分の二の補助が参ります。ただし、それ以下のもうは、都市計画税でそれという事でございまして、倍額の補助金はこない。事業をよければ参ります。その他は参りません。

・五番(田中祿郎君) そういたしますと、千四百万ですわ。この都市計画税を取ったから、千四百万円というものが国からくるということはないでございすね。都市計画税を取って事業をよければ、いろいろ話となり十一メートル以上のもうに対しては、三分の二の補助をする。都市計画税を取らなければ補助をしない。こういう見解でよろしくございすわ。

・建設課長(新井重助君) 都市計画税は関係ないと思ひます。

都市計画でもって事業を起こして認可があつた場合に補助がある。

。五番(田中祿郎君)　そうしますと事業というものは都市計画税にも関係はない。都市計画をやるためには都市計画税と目的税としてやってもならなくても補助金というものはもうえる。率は同じだ。こういう形になると思ひますか、わかりました。これで打ち切りまいよう。

。議長(黒川佐太郎君)　暫時休憩いたします。

午前十一時三十分　休憩

午前十一時三十分　再開

。議長(黒川佐太郎君)　休憩前に引き続き会議を開きます。先刻二七番議員が質問に對する答弁が保留してあります。

ーたので、これが答弁を求めます。

・税務第二課長(多田俊一君)先ほど過去三年間の徴収割合についての質問がございまして、たうでお答へ申し上げます。

昭和三十四年度から八九・〇三%、三十五年九二・五%、三十六年九一・九三%、三十七年九二・三三%というふうになっております。

三十八年度の見込みといいたうては、大体九二・五%近く持っていきたいと、努力いたしてあります。

・二七番(嶋田繁君)よくわかりました。それと現年度と滞納繰り越しと比較して、くれませんか。

・税務第二課長(多田俊一君)三十五年度は九七・五四%、繰り越し分については四一・四九%、三十六年度現年度九六・七三%、繰り越し分二八・七一%、三十七年度現年度九六・三五%、繰り越し分二八・七二%以上でございます。

二七番(嶋田繁君) そうですねと本年は九七%を目標にして
 というところでございますが、なかなかむづかしい仕事でしょうが、
 全力を注いでやってもういたい。

市長さんは特に保険とか徴税の方に出らねまゝでーつか
 リやねよというふうに激励してやたらその部局の取
 持ちが非常に張り合いが出てくると思いますから、そういう
 ふうにやっていたきたいことを申し上げたいと思います。

一 番(吉田勇治郎君) 地方交付税についてお尋ねいたします。

この予算が一億五千万見てございます。三十八年度は
 初予算が一億三千万に封じまゝで、現在は一億四千五百
 万、なお数百万の交付税が会計内繰までにくるやに反
 映しておるであります。そうですねと、大体昨年度の

実績が一億五千余万円となり、なお、地方交付税の根
 たる政府は二割の増ということは、我々素人考えに於て増額

されるということは信じてよろうではないかと思ひます。

この点交付税は、尙少ではいかと存するものであります。もし一億五千万より以上見込まれた場合にこれはどういう財源に振りかえていくかお示し願ひたい。

助役(小出武男君) 交付税と申しますのは、交付税法による基準・需要額と基準収入額との差額が交付されるのでございまして、ただこの予算だけではわからないと思ひます。

本年度は一億五千万という数字を推定したわけでございまして、これはただ架空にやったわけではございません。

実績から見た計算でございします。ですから、大体一億五千万は間違ひはないか。こういう推定でございします。なお、予定より余分にきた場合に、財源でございしますが、これは今から何に充てるということは考えませんが、

市・町・村・支庁・道庁・府庁・省庁・国庁・通し 毎年三千万から五千万の追加として
おるわけでございますが、それらの財源に充てておきながら、今
までの例でございます。もちろん、それだけの増加はもちろ
んないと思います。

交付税を含めまして、これらの財源というものは、追加財源に
充当したい。今から、何にすることとは、計画はもちろん
なっております。

一番（吉田勇治郎君）地方交付税でもかように見ておき
ます。今度、予算もいろいろな財源を総合す
ると、六割位になるとか九割九分位、予算を組んだ
とか、かような点をおもひに教えていただきたい。

交付税の問題であります。昨年度の実績からというこ
とは、非常に確実性がある。私たちとしても、結構とは
思います。交付税の場合、相当ふえるのではないかと、予算

というものは大きく予算化していくのが本當であり方ではないかと考える。

余格財源があるということをお認めになつたやに解釈するが、それでよろしゅうございますか、お尋ねいたします。

。助役（か出武勇君）お答えいたします。第一点でございますが、今年の予算はどの位ゆとりがあるかということだろうと思いますが、これは先ほど申しますように私どもは歳入の見通しをつく限度を取つてございます。

従いましてその年間におきまして税の伸びとか或いは交付税の伸びその他、歳入につきましても最大限の努力をばらつておるが、その点でございまして起債にても、或いは補助金にても当初組んだ予算よりもさらに伸びることを年間努力しておるわけでございまして、これら伸びが集結して年々二千万たり三千万たり追加財

源になるわけでございます。

一からは逆にいいですと、それだけのことがあるから当初組んだらいいではないかという逆説も成り立つと思います。すが、これははなはだ危険な予算でございます。一歩間違った場合にすべての事業に影響するということになりますのでこれは予算編成者としては当然あり方だろうと思います。

○一番(吉田勇治郎君) おおむね了解いたしました。適正な予算とお組みのことを要望いたしまして賛向を終わります。

○七番(田村源治郎君) 競輪事業に対して賛向いたいたしたいと思います。

本年度千七百万円の収入を求めているが、この見通しは完全であるか、それかうこれは特別会計に持つていて、

もらいたいと思つた点が、私も願ひたい。

・総務課長（山口実君）競輪収入でございしますが、法律に定められた目的にすぎないで、地方公共団体に配分されるわけでもございまして、私どもは、この趣旨にそいまして、福祉事業に充當してあります。

こゝがどう課目に残らへったということとはわかりませんが、一応一般財源として処置いたしております。

競輪収入でございしますが、昨年の実績は二千四百三十万ばかりございまして、競輪収入は不確定でございまして、この程度計上しておきまして、さらに多く配分がございまして、追加して参りたい。特別会計に収入を計上する必要はないと思ひます。

・六番（秋山六三郎君）私は、国庫補助金の中に土木事業に對する補助金があるやうな、どうかというふうに考へたんですが、

見当たらない。県費の補助をみますと、三十万計上されております。これは宮前橋の改築に対する補助であろうと想像するものであります。こういう事業に対して国庫においては補助しないのか。この点についてお伺いいたします。なお、国有提供施設等に助成交付金というものがございまして、これは実際、こういうものであるということをお教え願いたい。

建設課長（新井重助君）等一点の国の補助金でございまして、公営住宅には参りますが、その他、道路とか、そういうものについては補助金がないとやないかというお話でございまして、それは一般の道路について国の補助或いは県費補助というものが現在ございまして、ただ県費の方は橋梁あるいは道路については、必ずかな二割か三割か、補助金の規定がございまして、実際に各市町村

から申請したときに当初予算の額が範囲内でそういう関係がございます。

道路について、国庫補助の関係ですが、これは先ほど申しましたように都市計画事業によるものについてはパーセント以上の幅員を要するということが前提条件になっております。それ以下ものについてはほとんどないわけでございます。

それから集費が三十万のことですが、これはただいま申し上げましたように、位出るかわからないので、この位は出るだろうという考えでもって、あと、交渉になります。今のところ見通しはあまりよくない。

・助役(小出武男君) 国有提供施設等所在市町村助成
交付金、これは国有資産所在地及び納付に關する
法律というものが、よりよくして決定された制度でございま

して簡単に申しますと、国が施設でありながら、その市町村が固定資産と自治体以外の人が使っておるために、それに見合う固定資産のようなものを市町村に交付するというのが本旨でございます。市で申しますと、航空隊が該当いたします。これに対して固定資産が一億八千万ですが、二千七千坪これに対して年々交付金が参りまして、大体三百万円以内でございます。

○番(辻田実君)先ほどの質問に関連いたすんですが、県下の八市新市競輪協会におきまして特別会計を持っていますところがずいぶんあるそうでございますけれども一般会計に入るところもあるそうでございますけれども、この点について調査されたかどうか、伺いたいとあります。

もう一つは、償却資産税の問題になるわけでございます。けれども、これは、固定資産税の中で組まれていると思ひますけれども、極洋船田が、館山港を基地にしてありますけれども、参考までにはわかりました。教えていただきました。いんですが、極洋船田が、あそこにやっております償却資産税、税見込みが本年度どう位計上されておるか。

それからもう一つは、市民税の方でございますけれども、今非常に問題になっておる航空隊の問題でございます。計画として、館空の中におきますところ、特別市民税を徴収されておられるそうでございますけれども、特別市民税を納めてゐる人数はどう位で、どう位の額が納められておるか、その点わかりました。教えていただきたいと思います。

もう一つは、非常に今回の予算案で問題になっておる、ところ、幼稚園の問題でございます。発生に伺

いますと市の方では赤字というのをいっておるといひますけれども、交付金が入るまで、そう赤字に甘つておるはずはないのだというのを盛んにいわれております。

予算の上でいいますと、八、九千万円の赤字になります。交付税というものがかなりあるのではないかと。交付税の性格からいかならないかもしれませんが、一か一ながら幼稚園、財政需要額はどの位になるか、参考のため、聞かしていただきます。

・議長(黒川佐太郎君) 午前十分、会議はこゝにて休憩いたします。

午後 零時

休憩

午後 一時十分

再開

議長(黒川佐太郎君)午後9出席議員数二十五名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

一、審議員の賛向に対する答弁を求めます。

・総務課長(山口実君)第一点の競輪組合の件でございますが、各市の状況は一応各市独自で経営してあるところは特別会計で行なっておりますが、本市競輪組合、こういったところでは特別会計は設けておりません。

・税務第一課長(高木哲三君)極洋捕鯨について、今年度の予算でございますが、予算編成当時第五船舶の炭俵ではつきりませんで、当初予算には入れてござい
ません。大体キャッターボートが分だけは見込めるのではない
かと思っておりますが、三千トン以上の船が非課税というく
とになっておりますので、それもはつきりしたことは、ちよつとわ
かりません。

昨年、極洋捕鯨、税金ですが、三百六十八万二千円、きてあります。

それから、航空隊、市民税でございしますが、昨年、実績は、約八百人、百五十万七千三百八十円入っております。今年度は約千人、なっと越えておりますが、その税額はわかつてありません。

・総務課長（山口実君）地方交付税のうち、高等学校並びに幼稚園、こゝろに積算せらるゝた財政需要額、件でございしますが、高等学校につきまゝては、三千九百八十五万七千円、幼稚園に対しては、その他、教育ということで一本化されておりますが、分析いたしまして、計算いたしまして、結果三百二十四万三千円、この程度にみられます。

中参考までに、小、中学校について申し上げますと、小、中学校においては、二千九百二十三万、中学校に千九百九十七万

このような需要額でございます。

議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。議案第五号一般会計はひとまずこれで質疑を打ち切りたいと思います。

議案第六号特別会計公益質屋の部の審議に入りたいと思います。

これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって第五号議案の質疑を終ります。

これより議案第六号の質疑を行ないます。

議長(黒川佐太郎君)おはかりいたします。

議案第六号の質疑をこれで打ち切り議案第七号特別会計国民健康保険の部の審議に進みたいと思います。
これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって議案第六号の質疑を終ります。

こゝより議案第七号の質疑を行ないます。

歳入歳出一括して行ないます。

三三番(高橋文治君)国民健康保険税の賦課算定につきましては、主管課長ずいぶん苦勞していることはお察しいたします。

私は参考資料を配付まいまして、それによつて検討して見まゝのところ、何と一世帯九百円の昨年より多くなつております。少く増額が大き過ぎると思ひます。市民の

方におきまゝでは、都市計画税が倍になり国民健康保険税も一世帯九百円も増額するといふのであります。今後不安が出てくると思つたのであります。それを緩和する

ために国民健康保険の方は条例を改正して来年度の一月一日から全部を割給付ということになっております。せめて九百万増額するを五百万程度にしたらどうか。それについては一般会計から百万円繰り入れいたします。税額におきまして百二十万減額いたします。三百万だと三百六十万減額いたします。五百四十万ということになります。それ位程度に止めたらどうか。かように思っておりますのでございますが、これについて助役さんや見解を承わりたいのであります。

。助役(小出武男君) 市費削減の要旨は市民の個々の負担が少ふえるから、それを調整する意味において繰り入れをしたらどうかというものがねらいだろうと思います。

先般課長から申しました。市長からも申し上げたと思いますが、やはりこういう会計の独立採算制ということと

堅持いたしまして、本年までやってきております。これは単に国民健康保険ばかりでなく、その他の会計もやはり原則を保持したいという考えを持っていらっしゃるわけでございます。年々上昇します理由は、存続の通り、割給付を実施するということに大きなウエイトがかかっていると思っております。

要するに市民が相応な給付を受けるんだというたてまえに、おいて増加ということがいえると思っております。これも印刷物で配付してありますように、各市の状況を見ましても、繰り入れておるところが半分、繰り入れていないところも半分、かというような状況に調査表が出ております。さらにまた、これを市民一戸当たり、負担という表も出ておりますが、これを更にも、大体ほかの市の中甸をいっておる。こういう一つ、データーがございますので、この位のことば、やむを得ないということはいい過ぎかもしれないと

んが妥当な線ではないかというのが私どもも考え方でござ
いまして、本年度予算はその方針において編成してあ
るわけでございます。

この繰り入れ金につきましては、一昨年あたりから、皆さ
んの御意見があったのであります。最終的に赤字
を生むというような場合には、当然市が補てんいたし
ますので、そうした考えで当初から、これを予定しない
というのが今までの考え方であるわけでございまして、
本年度は少し上がることは、非常にお気の毒でござい
ますけれども、今申しますような給付を受けるとい
うことを十分P・Rをいたしまして、この原案を執
行していきたいというのが私どもも現在も考え方でござ
います。

。三三番(高橋文治君) 執行部の方はどういう考えでござ

いましうが、最悪の場合はどうしても繰り入れを
 ーなくてはいけないのでありますうで、原案承認という
 ことにしておいて後日追加更正でもそういう方法は取れな
 いものでしょうか。一氣に九百円ということでは最高の人
 では二千五、六百円上ると私は思います。

。助役(小虫武男君) 今うところまだ、そういう考えは持つておらな
 いわけでございます。

。三三番(高橋文治君) 昨参考までに主管課長さんにも尋
 ねたいんですが、館山市で年間窓口払いを令めても医
 者さんに払う金は一世帯平均一万四、五千円とみて、
 おりますが、調べておりまーたらお聞かせ願いたいと思
 います。

。保険課長(池田亮山君) お答え申し上げます。医療費の
 世帯当りの計算でございます。まず、三十七年度で申し

上げますと、終医療費が世帯当り一万四千八百四十円、これは窓口で支払いますものと保険給付をします金額の合計が終医療費でございます。

それから三十九年度の予算で見ますと、終医療費は一万七千二百七円という数字が出ております。

三三番(高橋文治君) 了解いたしまして、さらにお尋ねいたします。

一般会計から繰り入れた場合には、国から補助金が減額されると思いますが、この点、主管課長にお尋ねいたします。

保険課長(池田亮山君) 市費向の補助の問題でございますが、今度新しく条例改正いたしまして、世帯員への割給付の問題でございます。これは厚生省の方針をいたしまして、四ヶ年を区切りまして、全国で終保険者の四分の一づつを

指定して、割給付を行なう市町村に対して、割給付に
 対する交付金を出すということになっておるわけです。その
 条件には、いま一た場合には交付金はこない。そこで
 その交付金は、その市町村の保険財政の健全なもの
 というのがまず、第一条件になっておるわけでございます。
 健全と申しますのは、保険会計独自で運営できる状態
 のものというものが最大条件になっておるようでござい
 ます。当市の場合には、渠保険課長と再三話し合いま
 した結果、ここにやっております交付金は、確実にくる
 という数字ではないわけでございます。一かまず指定は、
 国庫にないという見通しのもとに、ここで見込んだわけ
 でございます。

なお、中参考までに申し上げますと、千葉市の問題で
 ございます。千葉市は、この四月一日から、割給付を

実施いたします。ただし、三千数百万円かの繰り入れを
して、保険行政を行なっておるわけでございます。

このような状態で運営していき千葉市に対する交付金
の範囲に入らるかどうかという問題が出てくるわけです。
ただ県下で第一番にこうと割給付を取り上げたという
ことに対しては、これも考慮しなければならぬというよ
うなことで、県も課長と実は話し合ったわけでござい
ます。

・二九番(鈴木市蔵君)歳入の問題ですが、前年度の保険
税は、三千九百六十三万四千円、本年度は四千三百四十
四万七千円という四百万の増額があるんですが、この予算
そのものが昨日賛成した場合には、今まで三十八年度
の国庫支出金が残ってくるかも知れないというような答
弁がなされたんですが、本年度の予算はそういうもの

のを見通しをつけてそのように組みまうたかこの点を伺つてみたいと思います。

・保険課長（池田亮山君）本予算を編成いたします。当時はまだ交付金・補助金に対する確実な見通しはついてなかつたことは事実でございます。ただ、私たちも年々やつておりますのでプリントに配付してございますように一応、算出の基礎はあつたわけでございます。その算出の基礎につきまゝで歳入として見込んであります。

・二九番（鈴木市蔵君）今までの決算書とみると、八百万乃至三十八年度は千百万円というふうな繰り越し金がある。繰り越し金というものは市で残る金だ。三十八年度に市民の保険税をすけい取り過ぎておつたがために、また、国庫支出金が多かろう、一千万余というものが残つたから、これを

三十九年度に対して繰り越一金というふうに解釈する。

さっき、助役さんといつたとあり、ギリギリに予算を組んで保険税の方もギリギリに組んでいただければ繰り越一金というものがなくなる。そう場合に助役さんの答弁にあったとあり一般会計の方に残った赤字を埋めてもらえば勘定ができる。それを課長さんはただ金を残そうと市民が若くてもかまわない。繰り越一金一千万でも二千万でも残そうという考えが我々は考えられない問題である。

最後に本年度の予算はこれで承認したとして来年度にも一も入百万乃至九百万の繰り越一金があった場合にこの一般会計で課長さんとしてはどう答弁なさる気持であるか、この点ももう一回質問いたしたいと思います。

・^保険課長（池田亮山君）ただいま、保険料を取り過ぎたから取ったという考え方でございますが、一応決算面からみますと

そうふうにもお考えになるかもしれません。これは残りまゝで原因は結局補助金や交付金条件が年度末におきまして改正になりまゝで残ったものが大部分でございます。保険料を必ずしも取り過ぎたということにもならないかと思ひます。そこでその交付金とか補助金とかいうものの仕格を申上げますと、これは本来は保険税の軽減に充てるべきものではなれて保険給付の改善に処すべきものであるということが前提条件でございます。従つて保険税とはそこらところで仕質がかわつていゝわけでございます。

・二九番(鈴木市蔵君)　そうすると三十九年度のこの予算は幾な予算だ。今あんたう答弁の中にあつた国庫支出金が幾らくるかわからないてあてすっぽうに組んだもうがわかつてきた。さういふふうにも一億一千万が五百万円で、も八百万円でも残つたらどうすまかということなんだ。

あんなの答弁はピントが合っていない。繰り越すような金が出てきたら、これは課長としてあやまるかどうするか。その点を聞いておる。

・保険課長（池田亮山君）三十九年度この予算で繰り越しができまいた場合、四十年年度も保険料その他におきまして、四十年年度で支出いたします。

・二八番（山田敬宇君）ちょっとお伺いしたいと思いますが、保険料の未納でございますが、最近の情勢はだんだん減りつつありますか、ふえておりますか。

それからもう一点は未加入の人がいますかどうか、それからそれに関連いたしまして、社会保険と重複して入っている面が非常にあることでございますが、それを調査したことがございますかどうか。

・税務第三課長（多田俊一君）第一点、市賛助に対してお答え申し上げます。

滞納率、越一ヶ月に上りては、毎月徴収率は上昇してあります。一例を申し上げますと、二月末現在におきまして、昨年は一〇・五％、今年は一七・二％というふうに、七％も上っております。

。保険課長（池田亮山君）第二点被保険者の未加入の問題、私たちの方でたゞいま申し上げられますことは、未加入の人はない。かように申し上げたいと思ひます。

たゞ、他から転入して参った世帯、届出未済のものも若干ありはしないか、ということは考へてあります。

第三点の重複加入のことでございますが、私たちが方では取り上げられない。なぜそうしたことか、起こるかと申します。

と、社会保険の保険証が社保に加入し、ましてから本人の手元に渡ります。そこで、旬に一ヶ月遅いものになると、二ヶ月近くたたなければ、入手できない場合があります。その旬は

国保の被保険者はそうよきやっております。そういった場合に起りますのが、現実に社保の被保険者でありながら、届出未済のために国保の被保険者であるという重複があらわけてございます。ここの調査と申しましても、なかなか困難でございまして、いまのところ調査ということはいたっておりません。ただ、この四月から事務改善によりまして、窓口で転入・転出一切をそこで扱いますので、こゝ点はある程度解消するんではないかという感じがいたします。

○二八番(山田教字君)重複の問題でございしますが、知らないで両方わけているということがあまわけですが、例外かと思ひますが、特に保険証の更新の場合に保険証を全然回収しないというのが、館山市ではないかと思うが、今後そういう場合に保険証を回収するということを考えておられますか。

・保険課長(池田亮山君) この四月一日有効期間の途中でございますが、事務機構の改善に伴いまして受診証を更新する予定であります。その場合に受診証は、確実に回収するといふうちにその事務を催促しております。そのようなり段取りにいたします。

・一番(井田実君) 直診勘定の面で伺いたいと思います。第一点は、第一の賃金で三十万八千円計上されております。この内容についてももう少し詳しく伺いたいわけでございます。

すわちち三十万というものはどういう臨時用人に使われているか内容を教えていただきたいと思います。

もう一つは、第二款医業費の面でございますけれども、この診療所は今後施設費を五百万ほど計上されております。診療所のうちかなり規模が大きくなるように伺っております。

けれども、前年度より全般的に低くなっているということについて支障がないかどうか、この点について、それから、直診勘定全般を現在より診療所へ規模において事業費そういうものが廻りまわっているか、この二点についてお伺いしたいと思えます。

・豊房診療所事務長（岩崎一郎君）お答えいたします。

まず第一点の賃金の件でございます。

これは現在おります臨時用人二名の賃金でございます。

一名は使丁、一名は事務を担当しております。この二名の年間の手当といまして三十万八千円お願いいたわっております。

次に医療費の問題でございますが、予算の面から見ますと、昨年度より大幅に減少しておりますような結果を示しておりますが、一か一かはあくまでも大部分

の支出は薬品でございます。

薬品の購入を健全財政の堅持という指導方針によりまして三割以内に止める。その線を守りますために一応見通しをいたしまして、このような額をお願いいたします。わけで診療収入七百五十万に對します三割以内ということが限度でございますので、薬品購入財源をいたしまして二百万程度で止めるという見通しを持ちましたので本年度は減少してゐるという結果を見たわけでございます。なお、移転に伴います支出の増額が見込まれるために、予算の規模があまりに小さいというような意味だろうと思ひますけれども、移転はいたしますけれども規模そのものは現状のままでございます。従いまして支出の面も建設費を除きましては、見ておらない。このような予定を持つてゐる次第でございます。

一〇番（辻田実君）第一点について再質問いたいたわけでございますけれども、この二人が臨時用人について確かめたいわけでございます。

一人は使丁、一人は事務担当の取算ということでございますけれども、小使いさんは南くところによりますと、もう七八年勤めておるといふことがわけております。また事務担当の方といわれておりますけれども手術とか、さらには外診の場合にお医者さんについて看護婦同様の仕事をしているように伺っておりますけれども、この点について確認いたいたいと思ひます。

・豊房診療所事務長（岩崎一郎君）ただいま御指摘のとおりでございます。一番最初にあらう人をお願いいたします頃には、看護婦の不足といひまゝでその補充として、あらう人をお願いしたわけでございます。あゝ方は資格は持つ

ておられないわけでございますが、相当の経験を持っておると
いう経験者でございます。ごく最近でございますが、事
務取員が不足いたしましたので、看護婦の業務から、事務
取員の業務にかわっていたのですが、いわゆる保険の請
求事務等に關する事務をやっております。

一、番(世田実君)臨時でございますから、正式には、時外手
当とか作業手当とかそういうものが十分に支出されない面
がある。従いまゝて、病院でありますので、夜患者さんがきたと
か、夜痛み出たという患者さんに対して、悪い影響を及
ぼしているだろうというところで伺っておただけいども、
かゝりながら、そういう事情を漏っているうちに、知ってきた
患者さんが、最近、あのおばさんに対して、隔重労働を
いるのは非常に心苦しいということ、で患者さんが言いたい
こともいえなくなるような状態にあるということを伺って

おりますけれどもこういうことでは非常に弊害がある
ではないかと思っております。さらに看護婦さんにつきましても
最近では事務の仕事をしておるようでもございますけれども
手術の場合には何か看護婦と同じに立ち会ったり看護
婦と同じ仕事をします。

日直・当直する場合には患者がくればた急手当をする生
生もありまして、そう看護婦さんが処置、手当というも
うを行なっている。そういう面において私は臨時用人という
形で身分が格づけをしないであっていることについて弊害
が大きい。こういう病人を扱う死ぬか生きるかという人を
扱うような人に臨時、こういう面については考えなければ
ならぬんじゃないか、こゝ点についてどうお考えになるか、
お尋ねしたいわけでございます。

さらにこれに附随いたしまして一括しますけれども例えは

貸屋においては、さういふふうな貸金は、三十二万、休養施設については百万、ユース・ホステルについては十四万八千円、上水道においては三十四万円の貸金というものが計上されておりますけれども、さういふ貸金の内容がおのおの同じだと考えられますけれども、参考のために、これも合わせてお伺いできれば各課でやらないでいいと思ひますので、付け加えて申す向いたらないと思ひます。

・秘書課長（小倉澄男君）お答えいたします。ただ今、指摘のあります通り、さういふような状況でいわゆる同一目的のために恒久的に使用してある臨時という形が現在まで使われておりまして、これは私の方でもいろいろ研究いたしまして結果、さういふものは、さういふ形であるべきでないということを一応考えまして、今後についてはこれについて何らかの処置を取っていきなさい、こういう考えでお

ります。

なお鳩山莊等、臨時用人でございしますが、これはサービス業務をいたします臨時取員等は非常に人がわかりますが、当初は六カ月とか大体臨時用人ということとは一年を限度としていたものでございしますが、その間にちきまーて優秀なものは本採用に現在もいたってきております。一、非常に要動が激しいということが本採用にさせてもやめていくという面もありますので、全般的にそういうふうに終始臨時でやっている場合とそうでない場合とあるわけでございしますが、今夜はそれに対して統一的な見解を持ちまして、善処していきたいと思っておりますのでよろしく願います。

議長(黒川左太郎君)おはかりいたします。議案第一号特別会計国民健康保険の部の質疑はひとまず、これで打

ち切り議案第八号、と畜場の部の質疑に進みたいと思
います。こゝにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よつて議案第
八号の質疑を終ります。

こゝより議案第九号の質疑を行ないます。

歳入歳出一括して行ないます。
暫時休憩いたします。

午後 二時十三分 休憩

午後 二時五十三分 再開

議長(黒川佐太郎君) 休憩前に引き続き本議を開きます。
こゝ際おはかりいたします。

ただ今、議題となっており、ます議案第八号と同時に議案第九号、第十号、第十一号、第十二号の各案計五算案を一括して質疑をいたしたいと思います。

これにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川往太郎君) 異議なしと認めます。よって議事の順序は変更されよう。

議案第九号乃至第十二号を一括質疑願います。

一番(吉田勇治郎君) 休養施設について一部で国民休暇村の方に譲渡するとかいう意見がありますが、その内容をお示し願いたいと思います。

まだ見解統一がなくて工合が悪ければよろうござい
いますか。

助役(小出武勇君) 鳩山荘は中承知通り国民年金の

還元融資で建てました施設でございます。

これはあくまで、厚生省関係の融資をもって建てた市民階級のレクリエーション施設として建てたものでございます。国民休暇村を誘致するときに国民休暇村自体もやはり趣旨は同じであるというので、厚生省から今後これと一緒にいた方が本来の目的を達成するためには有利であるという事になった場合に休暇村の方に合併してくれないかという希望はございます。

私どもとしましては、これはいわゆる前市長のときの話でございしますが、目的が一踏であって、しかも効果がより発揮できるものなら、そのときに考えようということになっております。従いまして、今後休暇村施設が完備いたしまして一方は市営であり、一方は休暇村施設であるというふうなことでござい。一本にいた方が連絡協調の面でより効

率的に彈用がでさるという目度があった場合には、そういう事態になった場合には、皆さんと市相談をいたしまして、対応いたしたいというふうに考えております。

・四番(志村信作君)ただ今うお話ですが、そうなった場合に市からすつかり手が切れるわけになるものでありまして、助役(小武勇君)そうなった場合を仮定しますれば、国民休暇村協会がその彈費主体になる。もちろん市で投資した分、けではございませんで、計算をしまして、市で投資した分、減価償却、こういうものを全部計算いたしまして、譲渡するということになります。無償であげるということはならないと思います。

・八番(望月照正君)と畜場。歳入、部でございしますが、と畜場の使用料は概して肉屋さんが活用しているものだと思っております。営利事業に使用してゐると畜場の使用料を

諸般の物価の高騰にもかかわらず、前年度と同額と
いうことはどういった見解でございましょうか。

・厚生課長(吉田耕一君) 昨年度と同様の歳入見込みを建
てたという見解につきましても答へ申し上げたいと思います。
現在と畜頭数というふうなものが需要に比較いたしまして
この地域があまりふえておらないというものが現状でございま
す。特に最近におきましても昨年も多くは見られな
いというふうな観点からいたしまして一応昨年度を踏襲
して計上した次第でございします。

・三三番(三沢節君) 議事進行について申し上げたいと思います。
ただ今議題となっておりまして議案第五号乃至第十二号
予算案に対する質疑はたくさん質疑もありのことと
思いますが、この辺でひとまず質疑を打ち切りまして、
詳細に内容を審議する必要上、予算審査特別委員会

を設置して、これに一括付託し、審査をお願いいたらないと
思います。なお、委員の数は従来にならぬようにして十二名
程度で結構だと思ひます。

そのほか方法は議長の方指名によりいたらないと思ひます。
よつてここに動議を提出いたします。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)ただ今三三番議員君の動議は議案
第五号乃至第十二号の予算案の質疑はこの辺で終結
し、直ちに予算審査特別委員会を設置し、これに
一括付託する。なお、委員の数は十二名とし、選出の方
法は議長の方指名によるということであります。

おはかりいたします。この動議に於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よつて決まりました。

二、予算審査特別委員会委員を指名いたしました。

二番議員 鈴木 正一郎君 三番議員 小柴 孝君

五番議員 田中 祿郎君 七番議員 田村 源治郎君

九番議員 安西 益男君 三番議員 菊井 敏博君

一六番議員 内 武夫君 一九番議員 藤田 好治君

三〇番議員 安藤 龜吉君 三一番議員 安天 徳順君

三三番議員 三沢 節君 三五番議員 松本 藤太郎君

以上十二名を予算審査特別委員会委員に選任いた

しますことに決り異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって決まりました。

重ねておはかりいたします。ただ今決定となりました。

予算審査特別委員会に議案第五号乃至十二号を

一括して付託し、次会々本会議までに審査を了し、その

経過並びに結果について報告を求めらるういたいと思
います。こゝに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって決まりました。
ただ今、選任された特別委員の方は、本日の全議散会
後、この議場において直ちに正副委員長と互選を行ない
ますのでお残り願います。

日程についておはかりいたします。

本日の会議に議案第五十七号、館山市建設計画の変更
についてを日程に追加し直ちに議題にいたりたいと思
います。こゝに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって日程は追
加されました。議案第五十七号を議題といたします。

本議案の説明は去る三月十四日になされたので、直ちに質疑を行ないます。

・議長(黒川在太郎君)おはかりいたします。

議案第五十七号はなお審査の必要上、予算審査特別委員会に予算案と合わせて付託し、予算案と同時には慎重審査をお願いいたします。

こゝに於て異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川在太郎君)異議なしと認めます。よつて議案第五十七号は予算審査特別委員会に付託と決しました。

本日の会議はこゝにて散会いたします。

次会は来る三月二十五日午後二時開会といたします。

その議事は議案第五号乃至第十二号及び議案第

五十七号にかゝる予算審査特別委員会、委員長報告、
討論、採決、並びに追加議案の審議といたします。

(拍手)

午後三時〇八分 散会

本日の会議に付した事件、
議事日程に同じ。

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

田村 源治郎

望月 照正

辻 実

石井 正

黒川集太郎

荻井敏博

志村信作

小沢恵太郎

関 武夫

保科忠夫

江田 徳太郎

君塚喜三

中村 省吾

島野茂樹郎

鈴木 孝

鳴田 繁

山田 教宇

鈴木市蔵

安藤 竜吉

安次徳順

三沢 節

高橋文治

山本 昇

松本藤太郎

山口 康

大席議員

安西益男

西村真次

藤田好治

萩生田七郎

